

制吐療法一覧

・高度催吐性リスク

	day1	day2	day3	day4	day5
パロノセトロン点滴静注0.75mg	●				
アロカリス点滴静注235mg	●				
デキサメタゾン9.9mg（静注）	●				
デキサメタゾン8mg（内服）		●	●		
オランザピン5mg	●	●	●	●	●

備考

DM既往に応じてデキサメタゾン 6.6mg（静注）、4mg（内服）へ用量変更・日数短縮もしくは内服中止を考慮。
悪心嘔吐状況に応じてオランザピン 5mg/day使用を考慮。（DM患者禁忌）

・中等度催吐性リスク

	day1	day2	day3	day4	day5
パロノセトロン点滴静注0.75mg	●				
デキサメタゾン6.6mg（静注）	●				

備考

DM既往に応じてデキサメタゾン 3.3mg（静注）へ用量変更を考慮。
悪心嘔吐状況に応じて中等度催吐リスク（オプション）へ変更。

・中等度催吐性リスク（オプション）

	day1	day2	day3	day4	day5
パロノセトロン点滴静注0.75mg	●				
アロカリス点滴静注235mg	●				
デキサメタゾン3.3mg（静注）	●				

備考

悪心嘔吐状況に応じてday2-3 デキサメタゾン4mg/day（内服）を考慮。
悪心嘔吐状況に応じてday1-5 オランザピン5mg/dayを考慮。（DM患者禁忌）

・軽度催吐性リスク

	day1	day2	day3	day4	day5
パロノセトロン点滴静注0.75mg	●				
デキサメタゾン6.6mg（静注）	●				

備考

悪心嘔吐状況に応じて、メトクロプラミドまたはプロクロルペラジンを考慮。
DM既往に応じてデキサメタゾン 3.3mg（静注）へ用量変更を考慮。

・最小度催吐性リスク

基本的に予防的制吐療法は行わないが、必要時には考慮。